

(令和元年度第 1 回食育推進評価専門委員会)

第 3 次食育推進基本計画の進捗状況についていただいた主な御意見

<家庭における食育の推進>

- 子供の朝食欠食の問題は、学校や地域で取組が進んでいるが、5%弱の欠食が残っている。正攻法の情報提供では変わらない家庭、興味を持たない保護者がいることを考えた場合、具体的に改善できた個別事例を集めることができたらよい。
- 40 歳以上の方が 20 代、30 代の食生活を振り返って、「良かった」と回答した人のうち、その理由として「家に用意されていたから」と回答した人を生活習慣病の予防や改善のために気をつけて実践している人と実践していない人で比べると、実施していない人の方が割合が大きいことに不安を感じる。

<学校、保育所等における食育の推進>

- 学校給食における地場産物の使用状況を 30%にするとの目標を掲げているが、横ばいが続いている。積極的な活用が進む現場の状況と違うので、目標設定の見直しが必要ではないか。調査時期、重量ベースか食材ベースかなど精査した上で調査を試みてほしい。
- 学校給食における地場産物の活用促進に当たっては、都道府県の食育推進計画の内容と連携しないと、都道府県の協力が得られにくいのではないかと。

<地域における食育の推進>

- 早食いの習慣は乳幼児期の影響が大きい。窒息事故にもつながる危険があることなので、食べ方も含めて食育で取り組んでほしい。
- 学校だけではなく、子育て世代、20 代、30 代の若い方々にバランスよく食事をとることがいかに大事かということ、国レベルで周知してほしい。
- 中食・外食の利用頻度が高いと栄養バランスが悪くなる傾向は、FAO のデータからもわかるように各国共通。一定以上中食・外食に依存する人は、栄養バランスに対しての意識がそれほど高くないと考えられる。
- 朝食の欠食という量の問題と、主食・主菜・副菜がそろった食事という質の問題がある。特に若い世代で課題であり、生活習慣が大きな要因。中食・外食の利用者が食事の質が整わないというのは、重要な視点。
- 健康経営や働き方改革により、ゆとりができる人も出てきていると思うが、生活の中で食に対する考え方が変わってきているのか、農林水産省の予算事業においてヒアリングできたらよい。

<食育推進運動の展開>

- 行政において、食育推進ボランティアなどを立ち上げているが、既存のマンパワーである食生活改善推進員も重要。

＜生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等＞

○ 学校の社会科の授業も活用して、農林漁業体験をしてもらう方法もあるのではないか。

＜食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進＞

○ 全国の消費生活センターが実施する消費生活講座において、食育に関する情報発信を行うことも大事。